



サムスン建設 8年間の想いで

田中 洋 ((株)吉田組)

1. はじめに

筆者は、8年間(2006~2014)、三星物産(建設部門)英語では、SAMSUNG C&Tにて、技術顧問(日本の顧問とは違い、経営にも意見の言える常務理事待遇)として勤務しました。したがって、秘書&運転手付、住居は高級マンションが用意されました。三星は、株主の過半数が、外人なので米国式の経営が実施されていました。三星は、韓国財閥第一位で戦前に創業され、日系的社風が残っていました。対して、現代は韓国財閥第二位で韓国的社風のようなものでした。

韓国料理は多彩で、日本人の口に合うので生活し易やすかったです。人生後半、豊かな人生経験ができた韓国滞在を振り返ってみたいと思います。

2. 渡韓経緯

2005年の晩夏、三星の人事部の方から梅田のヒルトンで夕食のお誘いがありました。韓国で建設し始めた長大スパン 800mの斜張橋である仁川大橋の現場で架設管理を指導していただきたいとの申し入れでした。筆者が、古田均関西大学教授(当時、現大阪公立大学特任教授、CVV代表)と共著で、土木学会に「斜張橋のケーブル張力調整による架設管理法」を多数投稿し掲載されていたことを調べていたようでした。当時わが国では、談合問題などで公共投資が不活発でした。また、橋梁建設に於いては、発注が落ち込み、魅力的な長大橋のプロジェクトが見当たらなくなっていました。それに対し、韓国では、仁川大橋を皮切りに、韓国版の本州四国連絡橋プロジェクトが始まるので活躍の場が開けていました。私の年齢も56歳になっており、最後のチャンスと判断してオファーを受け入れました。日立造船の部下には事情を理解していただき2006年1月末に円満退職しました。

ところで、小生はCVVにおいてHP(ホームページ)を担当していますが、大阪の橋梁技術者が韓国で力試しと日経新聞が報じました。この私の記事が旧CVVのHPに偶然掲載されていたので驚きました。旧CVVのCVVトピックスにあります。ご一読ください。CVVに入会する前から繋がっていたのです。ただし、CVVは、私の記事を書いたのではなくCVVの活動を報じた紙面を掲載したのですが、私の記事がたまたま重なっていたのです。不思議な縁です。

[http://www.cvv.jp/CVV2/topic/nikkei\(09.8.12\)/nikkei\(09.8.12\).pdf](http://www.cvv.jp/CVV2/topic/nikkei(09.8.12)/nikkei(09.8.12).pdf)

3. 韓国での仕事と生活

2006年3月から2014年1月まで、8年間、技術顧問として三星物産(建設部門)で働きました。最初の3年間は、仁川大橋の現場事務所に顧問室を設置してもらい通訳兼務の秘書を付けて頂き、非常に働きやすい環境でした。住居は、ソウル市西部にある文化地区Mok-dong(木洞)にあるHyundai_Haiperionで高級マンションでした。早朝、専属運転手が迎車してくれ現場に通い

ました。赴任最初は、非常に不安な気持ちでしたが、現場で働く人々は友好的で、日本の技術者に対して尊敬の念をもって、共同作業を進めることができました。私も、自分の持っている技術を惜しむことなく伝える気持であったので、お互い打ち解けることができ、上手く仕事ができたとと思います。

仁川大橋の現場（写真-1）で、架設の精度管理と強風に対する安全性確保が MISSION でした。仁川大橋の完成精度は非常にうまく遂行され、米国、日本はじめ多くの国の賞を獲得しました。特に、日本の土木学会田中賞（作品賞）を頂くために、私は、東京四谷の土木学会事務所で仁川大橋の素晴らしさを発表しました。高い評価で受賞が決まりました。授賞式には、韓国から現場所長をはじめ三星の重役が来日しました（写真-2）。



写真-1 仁川大橋現場にて

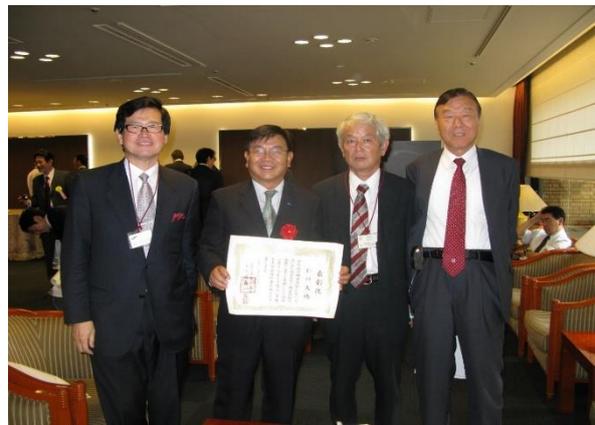


写真-2 田中賞授賞式（日本土木学会にて）

仁川大橋の工事が終わってからも、三星は私を継続して雇ってくれました。そして、韓国国内の橋や海外工事の技術指導を行いました。これらの仕事は、江南（カンナム）の本社事務所の部屋において通訳兼の秘書と行いました。

若い技術者向けに、「田中顧問勉強会」を開催しました。内容は、長大橋の耐風設計で架設現地の風環境をどのように考えて設計風速を決定すれば良いのか、韓国の大学では教えていない内容を教えました。熱心に多数の技術者が集まってくれ好評でした。

三星は、私学の有名校である成均館（ソングョンガン）大学に教育資金を出していました。そして、超長大橋学科という国家プロジェクトを推進する実務的な大学院の学科を成均館大学と協力して運営していました。私は、兼任教授となり、この大学でも耐風工学の授業を行いました。この学科を卒業した学生は、全員が三星に就職できるので、ソウル大やヨンセイ大の学部を出た学生も入学しました。私は、京大土木の非常勤講師で5年間教えました。目の輝きは、成均館大学の方が上だったと思います。

私の講義記録（主に、パワーポインター）は、三星のデータベースに収納され、社内のHPから誰でも見ることができました。それを見た職員から質問が来たこともありました。三星は、このような社内教育システムが非常に発達していました。

韓国国内の橋梁建設で印象深い工事はワンド大橋（写真-3）です。この橋は、古い橋が交通量の増加で架け替えることになったのです。約3年かけて建設しましたが、2～3カ月に1回ほど

車で約 4 時間かけて通ったことを懐かしく思います。ワンドは風光明媚な南部の海岸地方でおいしい魚も魅力的でした。ワンドの交通アクセスは大幅に向上しました。

また、韓国中部の文教都市安東（アンドン）近くにナクトンガンの川がありました。そこに仁川大橋と同じタイプの小型の連続斜張橋（写真-4）を建設していました。ここへも、三か月に1回の頻度で現場に行きました。この橋の完成によって安東市も、交通アクセスが大幅に向上しました。



写真-3 ワンド大橋



写真-4 ナクトンガン大橋

三星は、海外の建設工事をたくさん受注しました。最も有名だったのは、世界一高い超高層ビル：ブルジュ・ハリファ（Burj Khalifah ; 828m）（写真-5）通称：ドバイタワーで、2010年に完成しました。建設途中の2007年秋に、われわれ重役達の特別視察旅行が行われました。当時最も高級と言われたエミレーツ航空のゆったりとしたビジネスクラスでソウル～ドバイを往復し、ホテルは7つ星の豪華旅行でした。ビルは、架設中でも約700mの高さがあり、ほぼ最上階に昇りましたが、眼下は飛行機から眺める景色でした。このビルは、人気映画「スパイ大作戦（Mission Impossible）」の舞台になり世界的に有名になりました。こんな贅沢な旅行は初めてでした。ビルの近くは、リゾート地で高級マンションが分譲されており投資目的に購入を勧められました。皮肉なことに、韓国に戻って、まもなく、これらの不動産会社は金融不安で倒産しました。



写真-5 ドバイタワー

さて、韓国で最も楽しかった交流は、プリンストン大学での学友であったユン・ドクスン夫妻との2か月に一度の夕食会でしたが、他に、「丑の会」（写真-6）と呼ぶ会がありました。この会は、韓国人と日本人各6名くらいで集まり、干支が丑（うし）でした。したがって、1949年生まれでした。韓国人の方々は、日系の会社に勤めていた人がほとんどで、日本語がほぼ完ぺきな方々でした。教養も高く、政治的な見識もしっかりしていました。もっとも、政治のお話は、あまりしないで、酒と料理を楽しみました。ソウル郊外に別荘を持った仲間がいて、漢江上流の景色を見ながら、食事したのは楽しい思い出です。日本人は、日本の会社のソウル支社長クラスがほとんどで、韓国企業に勤める私のようなケースは稀でした。

日本からやって来る友人の接待も楽しいものでした。日本にいる時より、多くの人々と接触することができ、かえって良い機会を与えられた気がしました。



写真—6 夫婦同伴の日韓「丑の会」(田中撮影)

4. 韓国と日本の友好について

日韓関係は、個人的にはすごくうまく行っているのに、国と国になればどうしてうまく行っていないのが現状です。しかし、失望することはありません。両国民は、実質的には非常に仲がいいのです。ソウルの日本人が口をそろえて言うのは、「海外赴任するなら韓国が最高だ。韓国は、食事がうまく、ITが進んでいるし、システム（例えば、銀行やコンビニ）が日本とほぼ同じで迷うことがない。人々も友好でいやな思いをすることはない。」

それから韓国では、三星のように日本人技術者を信頼し重用してくれました。現在では、日本人技術者の数がかなり減っていますが、三星が韓国で最も栄えているのは日本人として誇りに思います。韓国の企業は、ベンチマークに米国企業を使いますが、日本の企業の動きもよく研究しています。ベンチマークに採用される日本の企業が、年々減少しているのは誠に残念です。逆に、日本企業が、もっと三星電子やLG電子などをベンチマークすべきと思います。

最後に、三星などの韓国の技術者の感想を述べましょう。彼らは非常に優秀でありました。しかし、気の毒なことに、入社に時間がかかりすぎています。なぜなら、三星の場合、国内の有名大学を卒業して、国内の有名校、または、外国の大学で博士号を取得しなければならないことが多いです。また、兵役が2年あります。これらのため、30歳を越えての入社になってしまいます。出発が遅いので、私が日立造船で受けたような下積みの仕事をする機会が得られないのです。いきなり、経験が無いにも関わらずマネージャーにならされることが多いようです。これでは、現場事故が起こって当然であるし、細部を知らない技術者となり、社内では聞けないので、外注のエンジニアに頼ることになります。設計業務はできないので、アウトソーシングになってしまい

ます。自分の頭や手を動かさないのが技術者として大成がむつかしいです。ただし、現場に配置された技術者は、自分で仕事を処理しなければならないため結構成長します。ところが、現場での仕事は規模の小さい仕事が多く、設計業務の本質的なところが学べません。工学的な仕事は、若い年齢から始めて、経験を積む必要があります。よって、博士号は後からとっても良いと思いますから、早く実務につくことです。また、兵役も2年は長いと思います。1年半ぐらいに短縮できたらと願います。韓日の技術者には能力的な差はありません。よって、環境改善によって、韓国技術者は日本人技術者と対等に戦えます。それどころか体力には勝っているから逆転も可能と、掛け値なしで評価できます。

5. おわりに

私は、現在、大きな起重機船を所有する吉田組という中堅のゼネコンで働いています。仕事は、海上風力発電装置事業と太陽光発電事業（自然エネルギー）の展開を行っています。自然エネルギーの伸長は、原子力発電にリスクが大きいので、大いに期待されています。もっとも、最近、勃発した、ロシアのウクライナ侵攻でエネルギー問題は複雑化して、評価は流動的です。

韓国も日本と同じように自然エネルギー問題に力を入れているので、また、力を合わせる機会が来ることを願っています。大統領も親日派といわれる尹大統領が選ばれました。未知ですが友好好転を期待したいところです。

私の韓国での8年間は、人生において、もっとも充実して素晴らしい期間であったと感謝しています。韓国は、第二の故郷なのでまた訪れて旧友とお会いしたいと思います。なお、韓国で知り合った関西人のバンド仲間とソウルで2回ライブ（写真-7）を開催しました。帰国してからも、仲間と集まり大阪市内でライブを開催しました。コロナ禍が収束したらバンド仲間と、もう一度、活発にライブを再開したいと心待ちにしております。



写真-7 ソウル「打（だ）」にてライブコンサート